

(平成28年 4月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	4月の総入荷量は、前年同月に比べると鮮魚は前年並みで、冷凍魚は3%の入荷の増加であったが、加工水産物は7%の減少となり、全体として2%の減少となった。価格については、鮮魚は前年並みで、冷凍魚は値下がりとなり、加工水産物は値上がりとなったことから、水産物全般の取扱金額は前年同月並みとなった。
(区 分 別 の 動 向) 鮮 魚	4月の鮮魚の総入荷量は、前年同月並となったことから、平均単価は前年同月並となった。 品目別には、よこわは入荷が43%下回り、価格は66%上回った。天然はまちは入荷が33%下回り、価格は5%上回った。養成まだいは入荷が15%下回り、価格は20%上回った。一方さわらは入荷が41%上回り、価格は21%下回った。水かれいは入荷が50%上回り、価格は12%下回った。ますは入荷が57%上回り、価格は15%下回った。 5月には、まだいが産卵に向けて浅場に移り、漁獲が増える時期となる。お造り、煮付、塩焼等色々な料理に、求めやすい価格となるこの時期に是非お召し上がりいただきたい。また貝類も寒い間痩せていた身がこれから肥ってくるので、これからのお勧めである。
冷 凍 魚	4月の冷凍魚の総入荷量は、前年同月と比べ3%上回ったことから、平均単価は6%下回った。 品目別には、冷えびは価格は10%上回り、入荷は17%下回った。冷さけは主体のチリ産が価格は4%上回り、入荷は10%下回ったことから、全体では入荷が13%下回った。また冷あかうおは価格は3%上回ったが、入荷が40%下回っており需要が低下したと思われる。 5月には、大きな動きはないと思われるが、依然として海外の需要は強く、輸入物は今後の為替の動きが大きな変動要因となる。

加 工 水 産 物	4月の加工水産物の総入荷量は、前年同月と比べ7％下回ったため、平均単価は6％上回った。 品目別には、丸干いわしは入荷が44％減少して、価格は36％の値上がりとなり、塩紅さけは、前年より10％値上がりして入荷は20％下回った。また塩さんま、開干さんまは昨シーズンの不漁から価格がそれぞれ43％、27％の値上がりとなり、入荷はそれぞれ51％、29％下回った。ゆでたこは入荷が18％上回り、価格は8％下回った。 5月には、ほたるいか漁が終盤となるが、兵庫産、富山産ともにこれまでのところ漁が少し低調である。また春祭りも後半となり、京都の祭りに欠かせない鯖寿司に用いる塩さばの荷動きが最も盛んになる月である。
------------------	---

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	長崎，愛媛で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ３９％上回ったため，価格は１６％下回った。
ま い わ し	石川，富山で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ４％下回ったが，大羽が少なく中，小羽サイズが主体となったことから，価格１０％下回った。
さ ば	三重，静岡で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２４％下回ったため，価格は１６％上回った。
す る め い か	長崎，石川で水揚げされたものの主体の入荷となったが，漁獲不振が続いており，入荷量は前年同月と比べ４８％下回ったことから，価格は２８％上回った。
太 物	入荷量はきはだまぐろは１６％上回ったが，本まぐろが１０％，めばちまぐろが６４％下回ったことから，総入荷量は前年同月と比べ６％下回ったが，単価の低いきはだまぐろが増えたことから，価格は２％下回った。
び ん ち ょ う	鹿児島，宮崎で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月並みであったが，需要の低下で価格は５％下回った。
あ ま だ い	中国，長崎で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１９％上回ったため，価格は５％下回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	国内産は減少したが，ノルウェー産が６０％の増加となったことから，入荷量は前年同月と比べ２４％上回り，価格は４％下回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ１７％下回ったことから，価格は１４％上回った。
(加工水産物主要品目)	
ち り め ん	徳島，宮崎で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１０％上回ったが，良品が少なかったことから価格は２６％

塩 さ ば	下回った。 千葉，ノルウェー産主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ 9 % 下回ったため，価格は 1 5 % 上回った。
------------------------------------	--